平成２９年度　学校評価集計結果（教職員）

回収日：平成30年1月15日（月）　対象者数 ： 38名（回収率100%）

◇ 判 定 ◇　A＝3.25以上、B＝3.25未満～2.5以上、C＝2.5未満～1.75以上、D＝1.75未満

◇ 評 価 ◇　1：十分（よい）　2：おおよそ十分　3：やや不十分　4：不十分

項目	番号	内容	評価				平成29年度		平成28年度	
			1	2	3	4	換算平均	判定	換算平均	判定
1 保護者・地域に信頼される学校	1	奉仕活動による心豊かでたくましい人間性を育む	14	21	4	0	3.26	A	3.21	B
	2	自然災害に「そなえる」防災教育の充実を図る	19	16	4	0	3.38	A	3.34	A
	3	学校間交流、地元小中学校への出前授業の実施し連携強化を図る	21	15	3	0	3.46	A	3.45	A
	4	家庭との連携を深め一人ひとりを大切にした心のサポート	11	19	8	0	3.08	B	3.00	B
	5	生徒の活動、各課の取り組み等を広く情報発信する	17	18	4	0	3.33	A	3.29	A
	6	開かれた学校づくりの推進と関係機関との連携強化	13	22	4	0	3.23	B	3.34	A
	7	危機管理マニュアルの見直しと充実を図る	17	20	3	0	3.35	A	3.24	B
2 基礎学力の向上	8	主体的に授業に取り組む姿勢・態度の育成	3	22	11	2	2.68	B	2.74	B
	9	生徒の実態に応じた「わかる・力がつく」授業の展開	4	26	8	0	2.89	B	2.95	B
	10	適切な課題等による家庭学習の習慣化	2	11	21	4	2.29	C	2.34	C
	11	朝読書と落ち着いて学習に臨む雰囲気づくり	14	22	2	0	3.32	A	3.50	A
	12	観点別学習評価を踏まえた学習評価の改善	6	20	11	1	2.82	B	2.68	B
3 基本的生活習慣と社会規範の醸成	13	生徒指導の徹底（非行防止、整容指導、挨拶の励行、時間厳守）	10	19	8	2	2.95	B	2.76	B
	14	ＨＲ・生徒会活動・部活動を通して人格形成	8	19	8	3	2.84	B	2.84	B
	15	情報共有を図り、教育体制機能を高め不登校や退学者の防止	10	21	7	0	3.08	B	2.68	B
	16	いじめやいじめが疑われる行為の早期発見、認知に努め組織的対応による早期解決を図る	12	13	11	3	2.87	B		
	17	安全な学校生活（交通ルール、人命尊重）	15	20	3	0	3.32	A	3.16	B
	18	外部講師招聘による生徒に対する情報モラル講習会の実施	15	20	3	0	3.32	A		
	19	５Ｓの徹底による学習環境づくり	10	23	5	0	3.13	B	3.29	A
4 進路意識の早期育成と進路実現	20	きめ細かい進路指導の展開	17	16	4	1	3.29	A	3.39	A
	21	早期の目標による全員の進路実現	16	16	6	0	3.26	A	3.34	A
	22	外部や地域との連携で職業観・勤労観の育成	17	19	2	0	3.39	A	3.39	A
	23	資格取得の充実により向上心や目的意識を育成	9	20	7	2	2.95	B	3.16	B
	24	卒業生の定着状況の把握と活用	10	25	3	0	3.18	B	3.03	B
5 明るい職場づくり	25	教職員の協働と融和で明るい職場の構築	6	19	10	5	2.65	B	2.68	B
	26	事務室との連携で円滑・適正な校務処理	7	27	4	2	2.98	B	3.21	B
	27	多忙化解消（スクラップ・アンド・ビルド）	2	13	18	7	2.25	C	2.37	C
	28	職員の綱紀保持（コンプライアンス）	11	25	2	2	3.13	B	3.21	B
		平成28年度の空欄は今年度からの項目				平均	3.06		3.06	

平成29年度学校評価結果分析と改善方策（教職員）

岩手県立宮古工業高等学校

1 回収率　100%(38/38)

2 総評(全体の傾向)

震災から６年以上の歳月が経過しているが、依然として本校周辺は復興道路工事の最中であり生徒の通学路の確保もきびしい現状にある。震災翌年から５年間続いた金沢北陵高校との交流事業も本校生徒、職員が訪問し更なる交流を深め今年度をもって終了した。また、６月に鮭の町復興クリーン大作戦を実施し津軽石小、赤前小、津軽石中、付近住民、工事関係者合わせて約560名で６年ぶりに津軽石川原での清掃を実施した。１０月には工業祭を実施し天候が悪い中約５８０名の来場者があり宮古工業の学習内容や生徒の活動を公開することができた。今年度もＰＴＡ、同窓会、地域の皆様等のご支援とご協力の下、「地域に信頼される学校」として、教育活動の成果をあげることができた。

職員によるアンケートは､学校経営計画に基づいた質問事項となり全項目の評価平均が５点満点の３．０６となり前年度と同じ平均となった。重点目標に対するそれぞれの分析の概要は下記の通りである。

１「保護者・地域に信頼される学校」では、７項目中５項目がＡ判定、２項目がＢ判定でＡ判定が１項目増えた。開かれた学校づくりを推進するため更なる関係機関との連携が必要である。

２「基礎学力の向上」では、家庭学習の習慣化が昨年、一昨年度から引き続きＣ判定であり、家庭学習定着させるために適切な課題の出題等の必要性がある。

３「基本的生活習慣と社会規範の醸成」では昨年度と比較し７項目中６項目の換算点が増加している。５Ｓの徹底を図る指導が必要である。

４「進路指導の早期育成と進路実現」では,今年度もきめ細かい指導で進路決定率１００％を達成しているが、昨年度と比較すると５項目中３項目の換算点が低くなっており、進学指導、資格取得の取組が課題である。

５「明るい職場づくり」では全ての項目で換算点が昨年度を下回っており多く教職員が職場環境に多忙化を感じているので仕事分担等の部分での改善が必要である。

今回の学校評価を踏まえ､多様な生徒に対し生徒理解にを深め､個性の伸張を図る教育を実践するとともに､生徒のコミュニケーション能力を伸ばし、生徒や保護者､同窓生､地域住民並びに県民の期待に応えられるよう「開かれた学校づくり」を推進していきたい。

。

重点目標		具 体 的 目 標 等	課 題		改 善 方 策 等
1保護者・地域に信頼される学校	1	奉仕活動による心豊かでたくましい人間性を育む	①クリーン大作戦の工夫 ②ボランティア活動の取組	→	予備日を含めた日程の計画と熱中症対策。 震災後、仮設住宅等も減少しており内容を含め要検討。
	2	自然災害に「そなえる」防災教育の充実を図る	①火災・津波避難訓練の実施 ②防災教育の取組	→	避難路の定期的な点検と確認。 学校全体としての取組内容を検討する。
	3	学校間交流、地元小中学校への出前授業の実施し連携強化を図る	①学校間連携の在り方 ②津波模型実演や出前授業実施	→	高校説明会等を通して中学生への本校ピーアールの仕方の工夫。 計画的な津波模型実演の実施。その他小中学校への出前授業実施の検討。
	4	家庭との連携を深め一人ひとりを大切にした心のサポート	①家庭との情報の共有、生徒理解	→	家庭との連携を図りながら、こまめな面談等を実施し生徒理解をはかる。
	5	生徒の活動、各科の取り組み等を広く情報発信する	①ホームページやツイッター、校報「やまぼうし」以外の情報発信。	→	複数の情報発信の手段の検討並びに保護者の手元に届く方策。
	6	開かれた学校づくりの推進と関係機関との連携強化	①開かれた学校づくりの推進	→	学校評価アンケート分析に基づいた改善事項の精査と学校評議員等の意見を踏まえた改善事項の推進並びに外部機関との更なる連携
	7	危機管理マニュアルの見直しと充実を図る	①復興道路工事に係る通学路の安全確保並びに危機管理マニュアルの周知	→	工事監理者、工事業者と調整、生徒・保護者への速やかなる情報提供及び通学路指導並びに本校危機管理マニュアル周知のための職員への研修会等の実施。
2基礎学力の向上	8	主体的に授業に取り組む姿勢・態度の育成	①授業における目標の明示 ②授業中の活動場面の設定	→	生徒理解を基に個々の目標の具体的に設定。 グループワーク等を導入した生徒の主体性を導き出す授業展開。
	9	生徒の実態に応じた「わかる・力がつく」授業の展開	①生徒個々の能力を把握した授業展開 ②教師の授業力向上に向けた取組	→	習熟度別学習、ティームティーチング等により学習内容の深化を図る。 互見授業・研究授業等を通し自己研鑽を積み授業力の向上を図る。
	10	適切な課題等による家庭学習の習慣化	①家庭学習が定着していない	→	担任、教科、教務が連携し、計画的な課題の出題を図る。
	11	朝読書と落ち着いて学習に臨む雰囲気づくり	①朝読書の意義の周知と環境づくり	→	朝読書の意義を生徒に理解させ、教職員も含め静かな環境での実施。
	12	観点別学習評価を踏まえた学習評価の改善	①評価について職員の意識統一	→	継続的な観点別評価に対する研修並びに研究。
3基本的生活習慣と社会規範の醸成	13	生徒指導の徹底（非行防止、整容指導、挨拶の励行、時間厳守）	①整容指導 ②挨拶の励行	→	教職員によるブレのない指導。 教職員からの積極的な声がけ。
	14	ＨＲ・生徒会活動・部活動を通して人格形成	①部活動の活発化	→	部活動の意義を理解させ積極的に参加する体制づくり
	15	情報共有を図り、教育体制機能を高め不登校や退学者の防止	①保護者や教育相談(SC)と連携した対応	→	教職員が情報共有や生徒個々を理解を図り、悩みなどを早期に発見し、教育相談やスクールカウンセラー、関連諸機関との連携を密にし対応するとともに、教職員に対しての研修会を実施する。
	16	いじめやいじめが疑われる行為の早期発見、認知に努め組織的対応による早期解決を図る。	①いじめ対応への体制づくり	→	事態発生後の生徒への指導や相談など支援体制の確立。
	17	安全な学校生活（交通ルール、人命尊重）	①交通安全指導の徹底 ②全教職員の情報共有	→	道路工事に伴う通学路変更への早急な対応と職員による通学路指導。 教職員が情報を共有し小さなことを見逃さない指導体制を確立する。
	18	外部講師招聘による生徒に対する情報モラル教育の実施	①講演内容についての検討並びに授業での指導。	→	外部講師への本校で必要とされる講演内容の依頼と情報技術基礎等の授業における情報モラル教育の実施。
	19	５Ｓの徹底による学習環境づくり	①５Ｓの周知	→	教職員の監督のもと、毎日の清掃指導とＨＲの整理整頓を確実に行う。
4進路意識の早期育成と進路実現	20	きめ細かい進路指導の展開	①進学者・公務員希望者に対する指導体制の充実	→	進学者、公務員希望者に対する課外授業や添削指導等のきめ細かいサポート。
	21	早期の目標による全員の進路実現	①早期の進路意識のに向けた指導	→	進路の早期目標設定の具体的な計画の作成
	22	外部や地域との連携で職業観・勤労観の育成	①継続的連携の必要性	→	産業支援センター、宮古・下閉伊モノづくりネットワーク等の外部講師を有効に活用し生徒・保護者に対し更なる進路意識の向上・育成に努める。
	23	資格取得の充実により向上心や目的意識を育成	①合格率の向上 ②資格取得に対して消極的	→	校内で調整した計画的な資格指導や指導方法の工夫。 資格の重要性、必要性を理解させる。
	24	卒業生の定着状況の把握と活用	①早期離職対策 ②情報の共有	→	卒業後も定期的に本人や企業と連絡を取り合い情報を収集するとともに原因を分析しする。また、情報を職員間で共有する。
5明るい職場づくり	25	教職員の協働と融和で明るい職場の構築	①適切な仕事分担 ②職員間のコミュニケーション不足	→	仕事の適切な分担及び仕事が重なったときの協働できる体制の構築。 普段から教職員間でのコミュニケーションを心がける。
	26	事務室との連携で円滑・適正な校務処理	①それぞれの校務処理の部分での共通理解を図る	→	引き続き連携を密にし､共通理解を得ながら進める。
	27	多忙化解消（スクラップ・アンド・ビルド）	①仕事量の増加 ②スクラップすべき仕事の見直し	→	公務分掌等における適正な作業分担。 不必要なものについては抜本的な見直しをおこなう。
	28	職員の綱紀保持（コンプライアンス）	①コンプライアンスの取組	→	職員会議時を通しての教職員への注意の喚起及び発表者の工夫。